

令和7年度 文部科学省委託事業 いじめ対策・不登校支援推進事業  
いじめ・不登校等の未然防止等に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究

# 「心理分野に強みや専門性を有する教師の 育成のための教職員向け研修プログラム」

## 第1章

# スクールカウンセリング総論

筑波大学・名誉教授／東京成徳大学・特任教授

石隈 利紀

※所属は2026年3月時点のものです

# 講義の流れ

1. スクールカウンセリングと『生徒指導提要』の改訂
2. チーム学校とは
3. スクールカウンセリングの内容と方法
4. 「**心理分野に強みや専門性を有する教師**」に求められる資質
5. 最後に：チーム学校におけるスクールカウンセリングの体制

# 1 スクールカウンセリングと『生徒指導提要』の 改訂 (1) スクールカウンセリングとは

スクールカウンセリング：教師やスクールカウンセラー（以下SC）らの  
チームによる学校教育の一環としてのカウンセリング

学校教育の一環としてのカウンセリング（3種類；石隈, 1999）

狭義：SCやそれに準じる専門家による、児童生徒（クライアント）の自己  
理解や「問題」への対応を援助する面接

やや広義：教師やSCなどの援助者による直接の援助的なかかわり

広義：教師やSCなどの援助者が、子どもが学校生活を通して、さまざまな  
課題に取り組むうえで出会う問題状況や危機状況に対応するのを援助す  
ること

## (2) 『生徒指導提要』の改訂：生徒指導の定義

「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きていくことができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである」

生徒指導上の課題：不登校、いじめなど児童生徒の苦戦している状態

①特定の課題を想定しない：支持する、支える

②特定の課題がある：指導する、援助する

①+②=支援する

生徒指導=生徒支援 スクールカウンセリングの中心的な活動

(八並・石隈・田村・家近, 2023)

### (3) 『生徒指導提要』の改訂：生徒指導の目的

「児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える」

「個性の伸長」（生徒指導提要2010）→「個性の発見」

個性：特性（強いところ、弱いところ）、育ちつつあるところも

よさや可能性：カウンセリングを通して「まだ開発されていない資源を発見し活用する」（Eagen, 1986）

今のWell-Beingを支えながら、将来の Well-Beingを支える資質を育てる

## (4) 『生徒指導提要』の改訂：子どもの権利

2022.6 「こども基本法」 **公布**

すべての子どもが、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、そして心身の状況、置かれた環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られる社会の実現が明記されている（第1条）。

そして児童生徒の権利として、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会が確保されること、そして意見が尊重されることが明記されている（第3条）。

- ・ 子どもの言葉や行動を、特性や発達の状況として理解し、意見表明として受け止める→スクールカウンセリングのスタート

例：授業中寝ている、リストカッティング→意見、思い、SOS

(石隈, 2023)

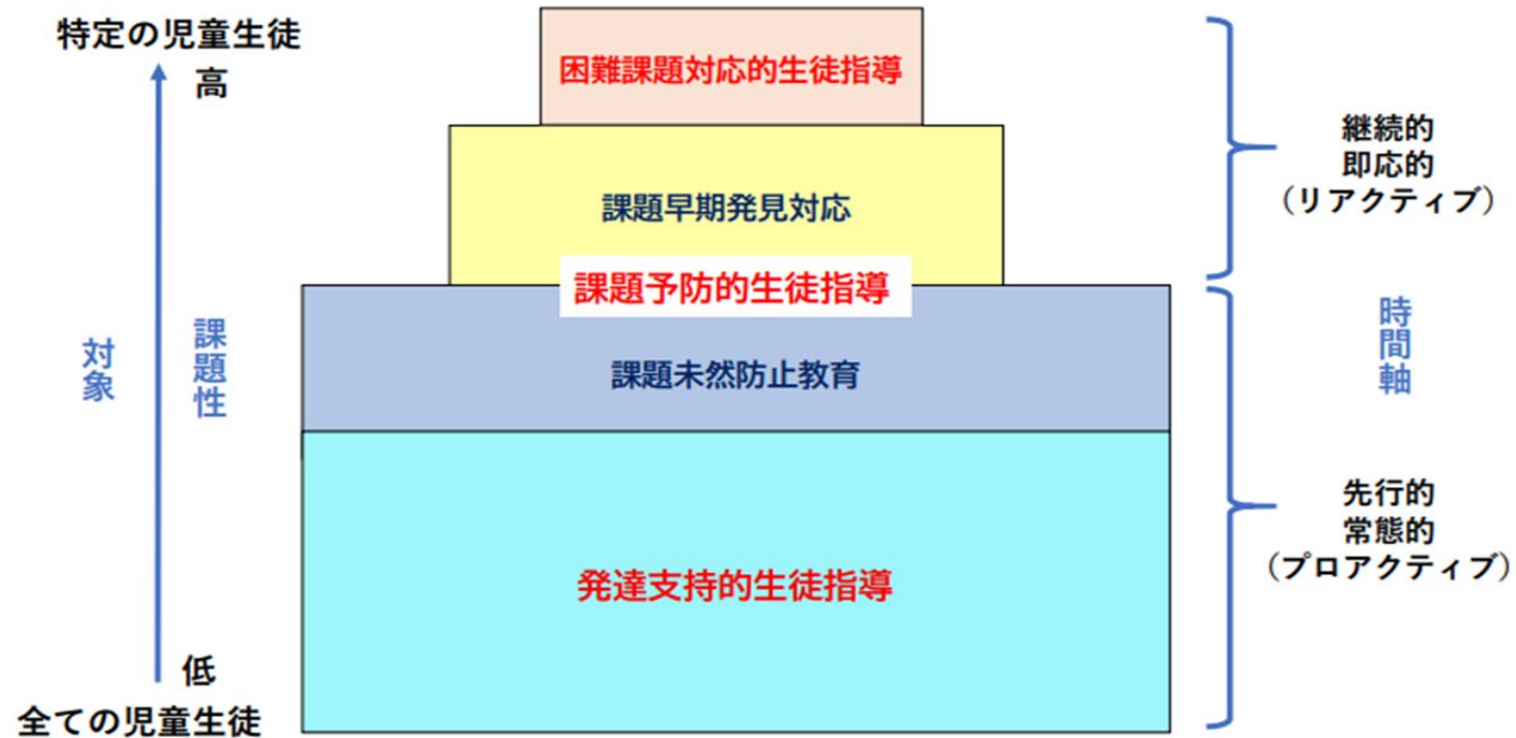
## (5) 『生徒指導提要』の改訂：重層的支援

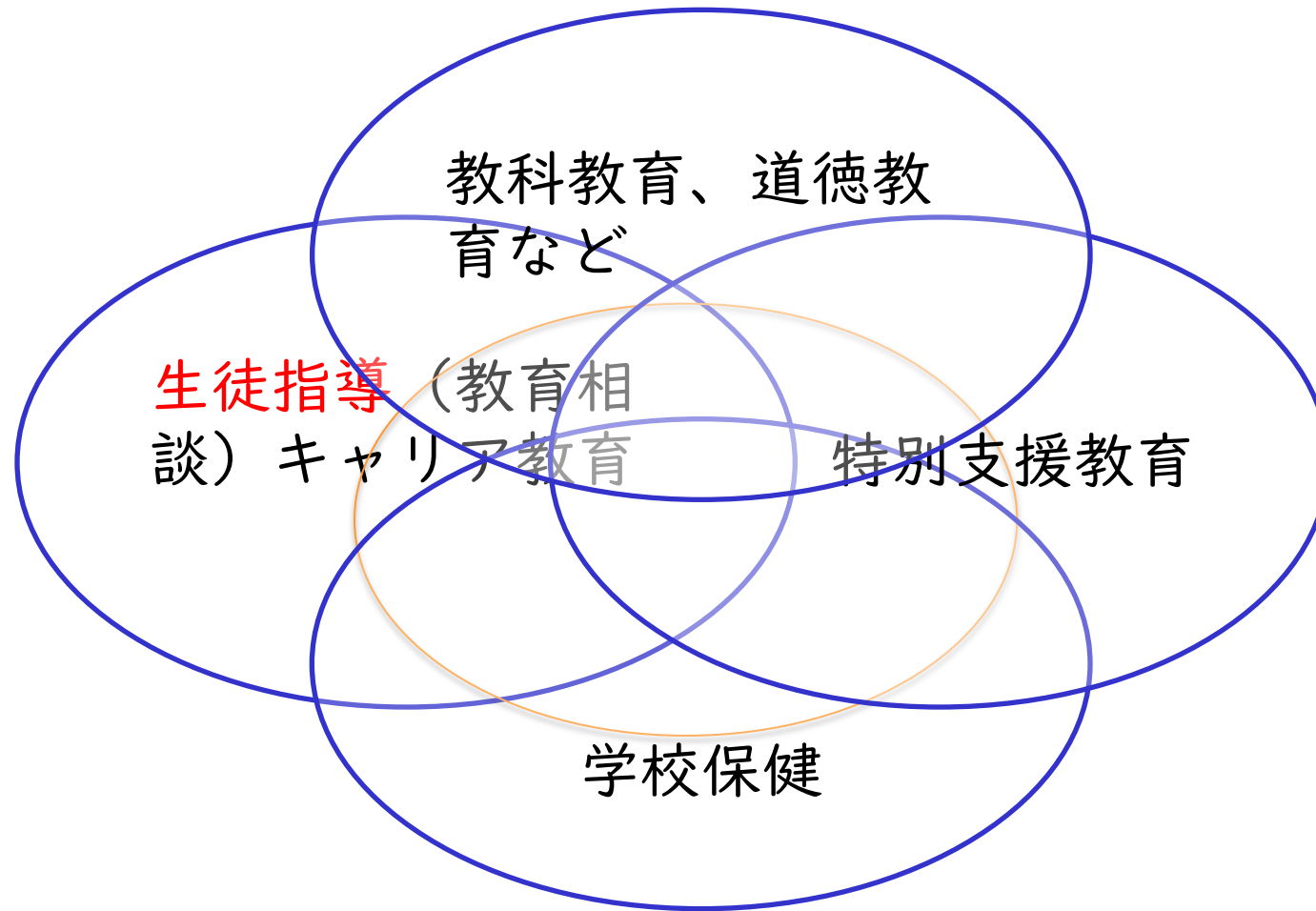
学校心理学：三段階の心理教育的援助サービス(石隈, 1999)

教育相談：「開発的カウンセリング」「予防的カウンセリング」「問題解決的カウンセリング」

- ・ すべての子どもへの一次的援助サービス：  
「発達支持的生徒指導」「課題未然防止教育」
- ・ 苦戦する一部の子どもへの二次的援助サービス：  
「課題早期発見対応」
- ・ 教育ニーズの高い特定の子どもへの三次的援助サービス：  
「困難課題対応的生徒指導」

# 重層的支援構造





## 1-2 生徒指導と関連領域

## 2 チーム学校とは

### (1) チーム学校の考え方

「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」 (最終報告)  
文部科学省中央教育審議会 (2015)

「チームとしての学校 (チーム学校)」という考え方：

学校教育の改革、スクールカウンセリングの推進にとって重要な柱

#### チーム学校の3つの方針

- ① 専門性に基づくチーム体制：教師と専門スタッフ (SC、SSW) らの連携
- ② 学校のマネジメント機能の強化：校長のリーダーシップ
- ③ 教職員が力を発揮できる環境の整備：人材育成や業務改善→働き方改革

★SC = スクールカウンセラー 心理の専門家

★SSW = スクールソーシャルワーカー 福祉の専門家

## 2 チーム学校とは(2)チーム学校の図

『生徒指導提要』(2022)p.69より

- ・ 学校・家庭・地域の連携強化
- ・ 学校内のチーム強化

学校内の組織 (石隈, 2016)  
マネジメントゾーン  
教職員・児童生徒ゾーン  
地域との境界ゾーン

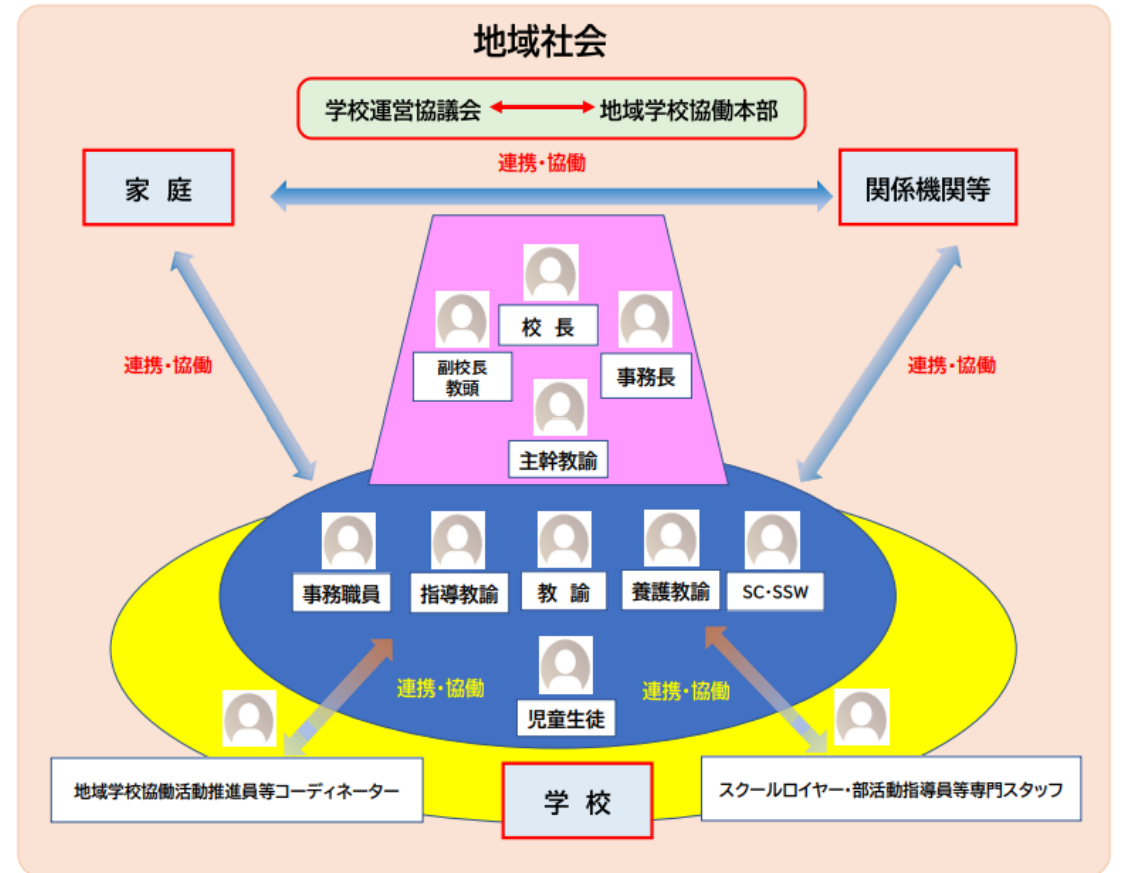


図3 チーム学校における組織イメージ

## 2 チーム学校とは

### (3) スクールカウンセリングと4種類のヘルパー

ヘルピング（双方向）；カウンセリング（カウンセラーとクライアント）

① ボランティア的ヘルパー：友人、地域の隣人

自発的な意思、自由時間；ストレスナーにも

② 役割的ヘルパー：保護者「自分の子どもの専門家」

子どもの発達、継続的な援助者；自身の傷つき、ストレスナーにも

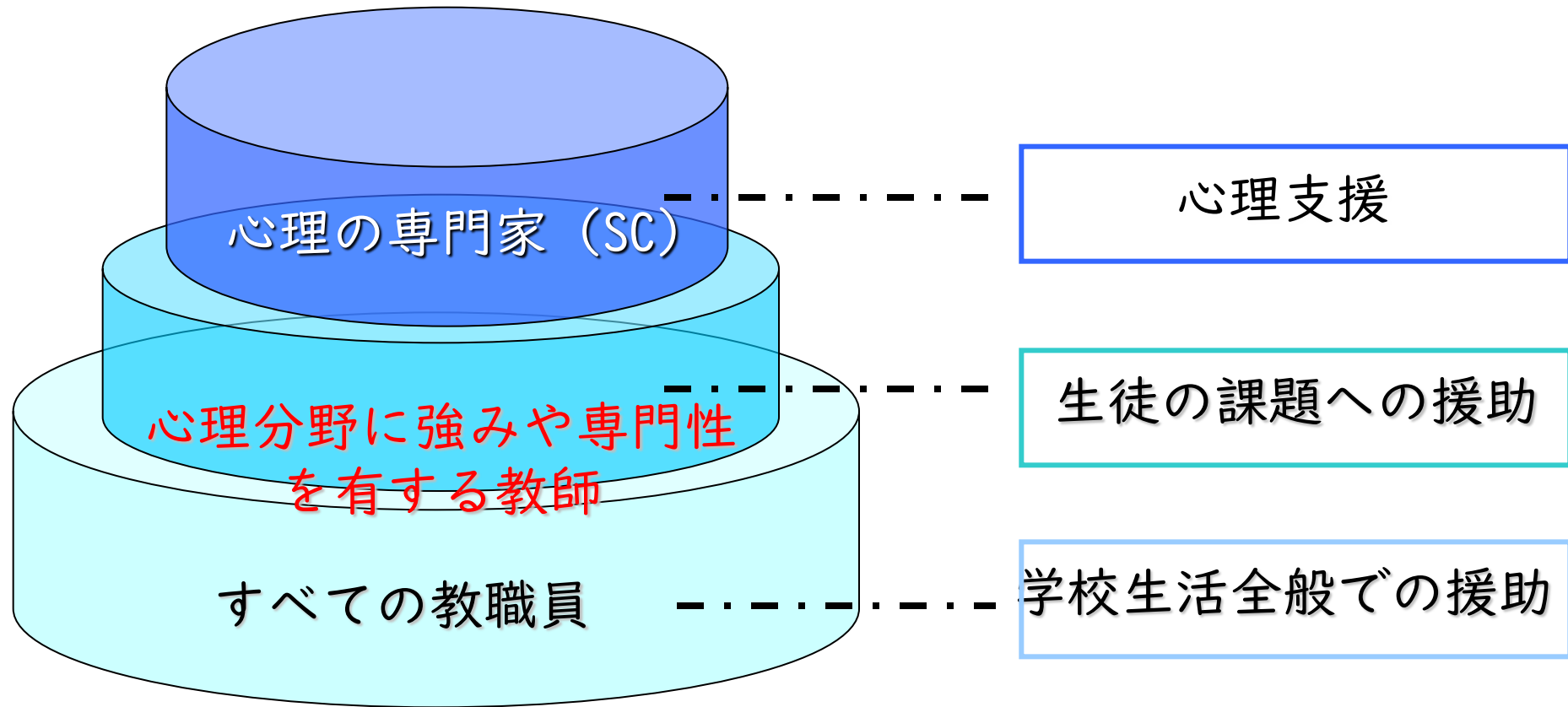
③ 複合的ヘルパー：すべての教師

指導・援助。日常の学校生活の困りを援助；ストレスナーにも

④ 専門的ヘルパー：スクールカウンセラーなど

心理学・心理支援の専門家（例：公認心理師）。週1程度の勤務。

☆ 心理分野に強みや専門性を有する教師 ③の「教師」の基盤＋④の専門的知識・技能



### 3 スクールカウンセリングの内容と方法

#### (1) 学習面・心理社会面・進路キャリア面・健康面

- ・ 学校生活の包括的に援助；養護教諭を中心とする健康面の援助も学校生活の4つの側面：互いに重なり合う(石隈・家近, 2011)

#### 学習面の苦戦と対応

- ①勉強のやる気、②授業が難しい、③学習方法がわからないなど

- ・ 「学習性無力感」への対応

学習面でできているところや興味関心のあるところ（個性の発見）、困っているところについて、一緒に整理。よさや可能性を伸ばす成功体験をつくる援助。

★学習性無力感：「失敗経験の結果，身につけた」という意味であり、学習面に限らず、人間関係も含めて、広く使用される概念。

### 3 スクールカウンセリングの内容と方法

#### (1) 学習面・心理社会面・進路キャリア面・健康面

##### 心理・社会面の苦戦と対応

・ 心理面（自分とのつきあい、情緒面など）

① ストレス対処、② 落ち込みや怒りへの対処、③ 自分への自信の欠如

・ 社会面（友人・教師・家族など他者とのつきあい）

① 友人・教師・家族、友人のグループや学級集団との関係

② 学校でいやなこと、③ 人に相談できない

・ 個別の面談：子どもの気持ちの理解と受容を通して自己理解の促進、よさを活かし、可能性を伸ばす具体的な問題解決案を一緒に探すなど

・ ソーシャル・エモーショナル・ラーニング 自己理解・他者理解、人間関係能力

### 3 スクールカウンセリングの内容と方法

#### (1) 学習面・心理社会面・進路キャリア面・健康面

##### 進路・キャリア面の苦戦と対応

- ①自分の能力、長所、適性また自分の役割がわからない
- ②将来やりたいことや自分の進路がきまらない

・進路・キャリア面の苦戦→「個性の発見」や「よさや可能性の伸長」

・自己理解、人間関係、進路情報、移行不安の問題（三村,2004）

→キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング

・長期の不登校への援助

夢のような希望（例：ミュージシャンになりたい）から現実的な希望（例：地域のバンドに参加してみたい）への援助（田嶋,2016）

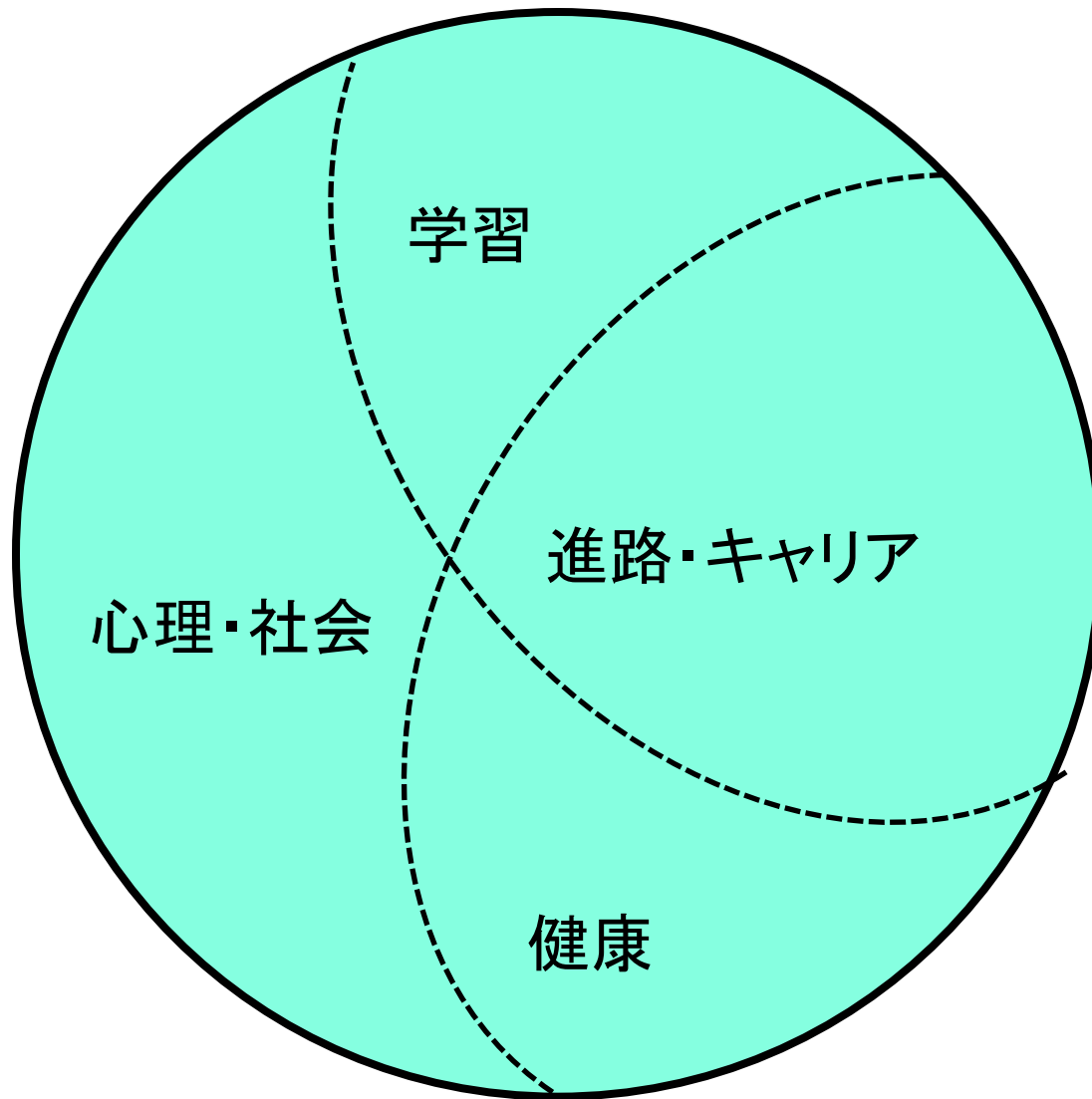
### 3 スクールカウンセリングの内容と方法

#### (1) 学習面・心理社会面・進路キャリア面・健康面

##### 健康面の苦戦と対応

①食欲不振、睡眠不足、②生活習慣の乱れ、③自分の病気や障害のこと

- ・ 養護教諭がリーダーシップをとるが、すべての教職員
- ・ 身体的な訴えを「痛いんだね。つらいね」と健康面の問題として受け止め、授業を休みたい、ストレスがたまっていると決めつけない。  
身体的なケアをしながら、それをきっかけに子どもの学習面、心理・社会面や進路・キャリア面についても話題に。



### 3-1 学校生活の4つの側面

(石隈利紀・家近早苗 2021 スクールカウンセリングのこれから 創元社)

### 3 スクールカウンセリングの内容と方法

#### (3) アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション

- ・ 心理教育的アセスメント (石隈, 1999) : 援助対象となる子どもが学校生活において課題に取り組むうえで出会う問題状況や危機状況についての情報を収集し意味づけし統合して、スクールカウンセリングの方針や計画を立てるための資料を提供するプロセス

→子どもの自己理解 (フィードバックにより)

- ・ アセスメントの方法: 観察、子どもや保護者との面談・面接 (三者面談も)、心理検査 (個別の知能検査や学級のアセスメント)、記録書類等による引き継ぎ

★心理分野に強みや専門性を有する教師の役割

★援助チームシートの活用

(11章、12章参照)

### 3 スクールカウンセリングの内容と方法

#### (3) アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション

- ・ カウンセリング：（やや広義のカウンセリング）教師やSCなど職業的援助者による子どもへの直接の援助的なかかわり  
教師の面談（10章参照）、授業や部活動でのかかわりにSCの面接
- ・ 個別面談と定期的な面談（全員面談も；10章参照）
- ・ 三者面談（本人参加型援助チーム；例、転校生）
- ・ ソーシャル・エモーションナル・ラーニング（9章参照）  
構成的グループ・エンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング

### 3 スクールカウンセリングの内容と方法

#### (3) アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション

- ・ コンサルテーション：「異なった専門性や役割をもつ者同士が子どもの問題状況について検討し今後の援助のあり方について話し合うプロセス（作戦会議）」（石隈,1999）
- ・ コンサルタントとコンサルティ：相互コンサルテーション
- ・ 目的：①子どもの問題状況に関して、現在の援助サービスがよく進み、子どもの学校生活の質が向上すること。②援助者（コンサルティ）が援助サービスの能力を向上させ、未来の援助サービスがよりよくなることである。★コンサルテーションは予防的な機能がある。

## 4 心理分野に強みや専門性を有する教師に求められる資質

### (1) 求められる資質

- ・ **心理分野に強みや専門性を有する教師**が生徒指導・教育相談担当、特別支援教育担当となり、養護教諭等と共に、スクールカウンセリングのリーダーシップをとる
- ・ スクールカウンセリングの知識と方法
- ① スクールカウンセリングの基礎となる理論：カウンセリング心理学、学校心理学、臨床発達心理学（2章から4章）
- ② スクールカウンセリングにおける課題と対応：不登校、いじめ、非行など（5章から8章）
- ③ スクールカウンセリングの技法：アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション（9章から12章）

# スクールカウンセリングの基盤

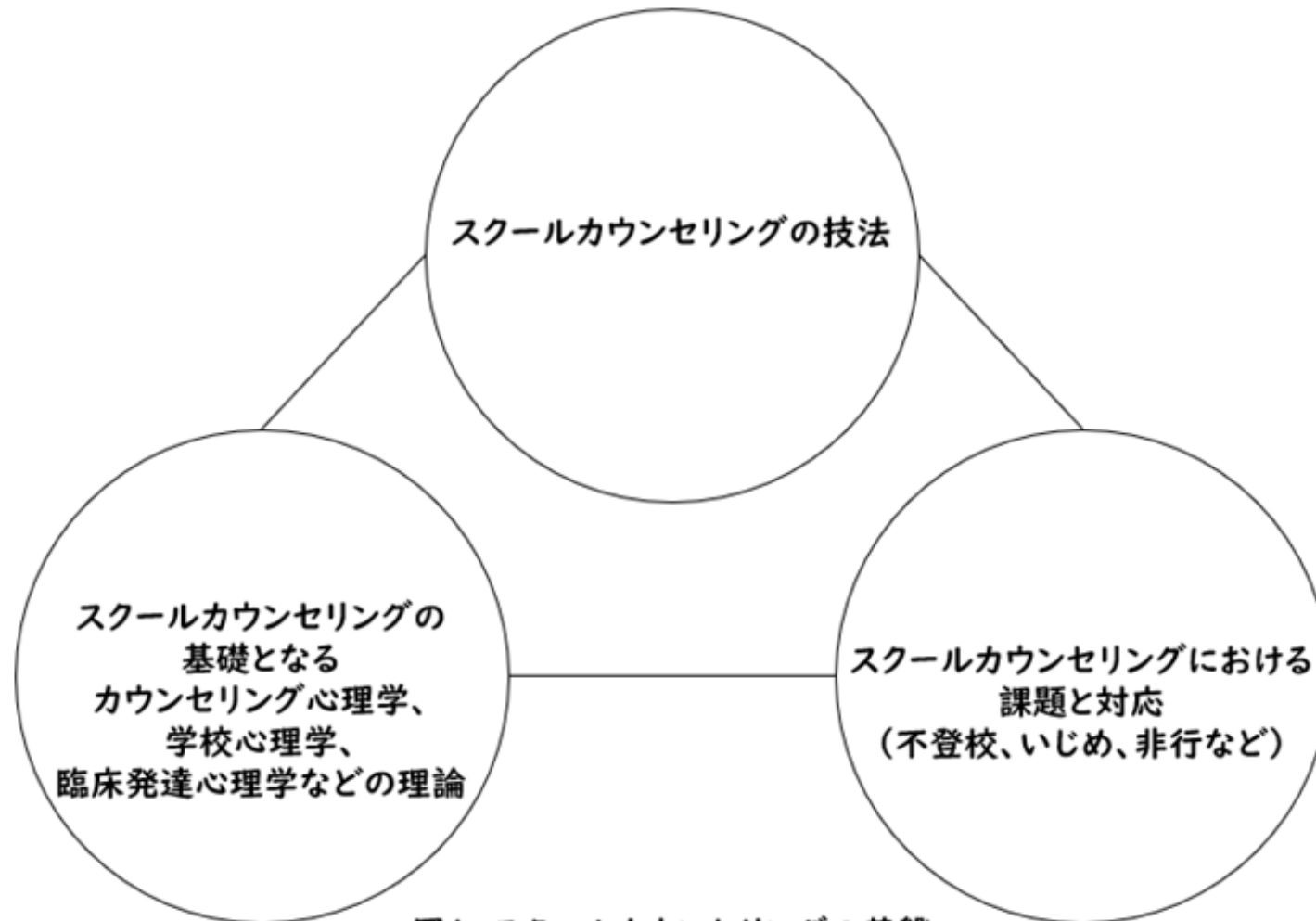


図4 スクールカウンセリングの基盤

## 4 心理分野に強みや専門性を有する教師に求められる資質

### (1) 求められる資質

#### ・ スクールカウンセリングの基盤（知識と方法）

#### ① スクールカウンセリングの基礎となる理論：カウンセリング心理学、学校心理学、臨床発達心理学（2章から4章）

- ・ カウンセリング心理学（國分ら, 1997）：開発的・予防的・問題解決的カウンセリング、精神分析・認知行動療法・クライアント中心療法などカウンセリングの方法、キャリアカウンセリングなど
- ・ 学校心理学（石隈, 1999; 日本学校心理学会, 2025）：チームによるスクールカウンセリングのシステム、三段階の心理教育的援助サービス、個別の援助チーム・コーディネーション委員会・マネジメント委員会など
- ・ 臨床発達心理学：生態学的発達論、各年齢段階の発達課題、発達の多様性と発達障害、アタッチメント、家族の状況など

## 4 心理分野に強みや専門性を有する教師に求められる資質

### (1) 求められる資質

#### ② スクールカウンセリングにおける課題と対応：不登校、いじめ、非行など (5章から8章)

- ・ 不登校、いじめ、非行・暴力行為の他に、自殺やトラウマ、児童虐待など家族の状況：課題の要因についての理解と援助方法についての知識
- ・ 学級づくり・学校づくり（予防的かかわり）：農村型コミュニティから都市型コミュニティへの移行期（広井、2009）における安心・安全な集団。学級の凝集性による一体感よりも一人ひとりの子どもの個性の尊重
- ・ 不登校・いじめ・非行等の早期発見・早期対応の方法

## 4 心理分野に強みや専門性を有する教師に求められる資質

### (1) 求められる資質

- ③ スクールカウンセリングの技法：アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション（9章から12章）
- ・ 心理分野に強みや専門性を有する教師：教育の専門性を基盤とするスクールカウンセリングの能力
  - ・ アセスメント：一次的援助サービスについての情報の収集・整理、SOSの発見と二次的援助サービスのニーズの把握など
  - ・ カウンセリング：面談（傾聴、日常生活の困りごとに焦点、提案も）、ソーシャル・エモーショナル・ラーニングなど
  - ・ コンサルテーション：生徒指導部会・教育相談部会（コーディネーション委員会）での情報の整理と援助方針の提案、チーム援助を促進するコーディネーション

#### 4 心理分野に強みや専門性を有する教師に求められる資質

##### (2)心理分野に強みや専門性を有する教師の育成と研修

- ・ 大学の教職課程における学修の充実：すべての教師がスクールカウンセリングを行う日本型学校教育。「生徒指導」「進路指導・キャリア教育」「教育相談」等の授業、さらには「教育・学校心理学」も。

「子どもの支援の理論と実践」に関する資質能力を獲得

- ・ 教職大学院における学修：生徒指導・教育相談に関する領域（子どもの理解、問題行動の事例研究、子どもの進路発達を促す指導援助など）、学級経営・学校経営などの領域で、**心理分野に強みや専門性を有する教師の資質能力**を獲得。
- ・ 現任の教師たちの講習：教育委員会で「教育相談コーディネーター研修講座」など現在の講座の整理と発展。教育相談、児童生徒理解、チーム援助の方法等心理分野に強みや専門性を有する教師の資質能力を獲得

## 4 心理分野に強みや専門性を有する教師に求められる資質

### (3)心理分野に強みや専門性を有する教師の活用

#### 心理分野に強みや専門性を有する教師の発見とリストづくり

- ①教職大学院で生徒指導・教育相談等を学習している教師
  - ②生徒指導・教育相談関係の分掌で講座等を受け学び続けている教師
  - ③養護教諭や特別支援教育担当教師でスクールカウンセリングの講座等を受けている教師
  - ④スクールカウンセリング（子どもの学校生活の苦戦での援助）に関わる資格（教育カウンセラー・学校心理士・ガイダンスカウンセラーなどを）獲得している教師、
- ・活用する場所や職務：生徒指導部・教育相談部などの校務分掌、教育相談コーディネーターや校内支援センター担当、不登校担当など

## 演習：自分の強みと仲間の強み

1. みなさん自身の強み①②③について考えてください。
  2. グループで、それを共有してください。
- オンデマンドで受講されている場合は、同僚を一人思い浮かべてその方の強みについて考えてください。
- ①職業的強み：自他ともに認める
  - ②個人的強み（趣味・特技）：子どもに伝える
  - ③大切にしていること（価値観）：ときどき点検する

## 5（最後に）チーム学校におけるスクールカウンセリングの体制

- ・ チーム学校の課題・学校教育の課題：多様な援助ニーズをもつ、一人ひとりの子どもに焦点をあて援助するスクールカウンセリングの充実
- ・ すべての教師による援助を基盤に  
心理分野に強みや専門性を有する教師の援助を付加して、  
さらにSC・SSWの援助を活用する
- ・ **心理分野に強みや専門性を有する教師**は、チーム学校の充実の担い手！

# 引用文献

- 広井良典（2009）『コミュニティを問い直すーつながり・都市・日本社会の文化』ちくま新書
- 石隈利紀（2016）「「チーム学校」における連携～スクールカウンセラーの役割と課題」臨床心理学（臨時増刊号「公認心理師」）、pp.33-35
- 石隈利紀（2023）チーム学校による生徒指導—児童生徒の主体性と意見を活かす生徒指導提要（改訂版）—全文と解説 pp13-17 学事出版
- 國分康孝（監修）（1997）石隈利紀・井上勝也・茨木俊夫・上地安昭・金沢吉展・木村周・田上不二夫・福島脩美（編）『スクールカウンセリング事典』東京書籍
- 三村隆男（編）（2024）『生徒に寄り添う進路指導の言葉かけ～キャリア・カウンセリングの視点を生かして』東洋館出版社

# 推薦図書

石隈利紀 1999 学校心理学 教師・スクールカウンセラー・保護者の  
チームによる心理教育的援助サービス 誠信書房

石隈利紀・家近早苗 2021 スクールカウンセリングのこれから 創元社

八並光俊・石隈利紀・田村節子・家近早苗編著 2023 やさしくわかる  
生徒指導提要ガイドブック 明治図書

日本学校心理学会編 2025 学校心理学事典 丸善出版

★石隈利紀や日本スクールカウンセリング協議会のXやHPでも、スクール  
カウンセリングについて発信しています。ご参照ください。